

機運醸成へ多文化理解



(右から) 和山アマングさん、トマス・アンナさんと多文化共生について語り合う志家町内会の会員ら

盛岡で県の
キャラバン

住民と外国人交流

16年度から本格開催

県は19日、盛岡市山王町の市立山王老人福祉センターで、本県在住外国人と地域住民が多文化共生を図り、国際リニアコライダー（ILC）誘致実現の具現機運を高めるILCキャラバンを初開催した。少人数で双方向の交流を図る取り組みとして2016年度から本格開催し、小さな輪を積み重ねて全県へと広げる。

初回は盛岡市が協力し、志家町内会（川村陸雄会長）などから約10人が参加。講師は県



海外情報発信専門員の和山アマングさん（29）
米国籍出身と、奥州市ILC国際化推進

員のトマス・アンナさん（30）が務めた。

ILC誘致が実現すれば、移住する外国人研究者とその家族らは数千人と試算されている。2人は本県で暮らし外国人との生活トラブルをテーマに、町内会やごみ収集など米国籍にはない制度で戸惑った事例を紹介した。

和山さんは「多くのトラブルは、文化の違いを知らなかったことが原因だ。外国人は日本に溶け込み、県民は外国人にルールを伝える双方の努力が重要

だ」と指摘。トマスさんは「外国人の多くは孤独であり、声を積極的に掛けられると心強い」と助言した。

川村町内会長（76）は「在住外国人の具体的な悩みや、トラブル解決へのヒントがあり勉強になった」と振り返った。

県は16年度、5人以上の団体を対象にキャラバンを派遣する予定。宮内隆県ILC推進課長は「多文化共生を切り口にILCの身近さを県民に伝えた」と語る。